

暮らしの広場

がん

克服へ

【15】

工藤 明敏

■胃がん編



5センチに膨らみます。ギャル曽根の胃はどれ

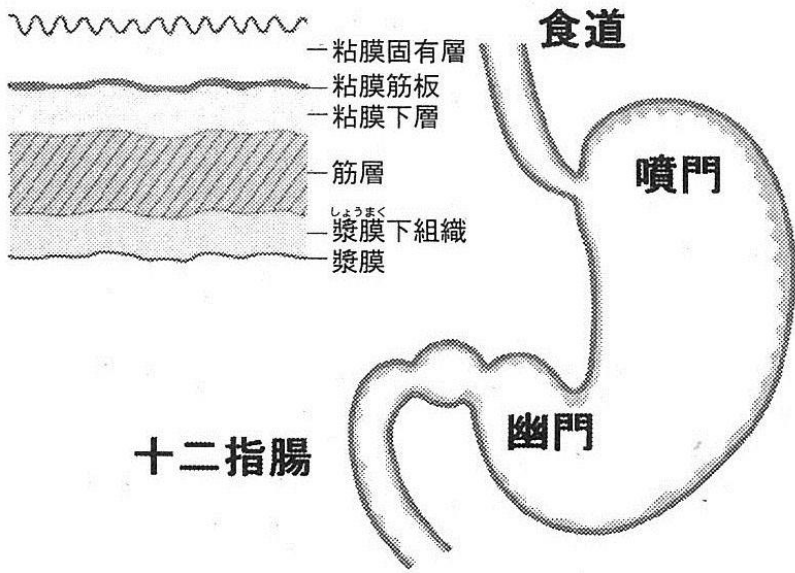
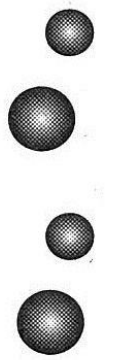
胃のしくみ

食道から運ばれてきた食物は、胃の中でくだかれて粥状に消化され、十二指腸に運ばれます。胃の入り口を噴門、出口は幽門といいますが、噴門は胃の内容物が食道へ逆流しないよう防止機能が働いています。幽門はいつもは閉鎖していますが、食物は胃液と混ざり合い消化されると幽門が開いて十二指腸に送られます。満腹時の胃は一般的には1.5センチに膨らみます。ギャル曽根の胃はどれ

食べ物の消化と殺菌

胃液は無色透明で、一日に約2リットル分泌されます。胃液として粘液も分泌されますが、粘液はアルカリ性で胃酸を中和して、胃酸によって胃壁が傷つけられるのを防いでいます。胃の働きに影響を与える因子には、アルコール・鎮痛剤・喫煙・ストレス・ピロリ菌などがあります。

△アルコールの影響 少量のお酒は胃酸の分泌を促し食欲を増します。食物は胃で消化されて小腸で吸収されますが、アルコールだけはその20%ぐらいが胃で吸収されます。大量のお酒を飲むと、胃の運動機能は低下し、胃粘膜の表面を保護している粘液の組成が崩れて、胃粘膜は大きなダメージを受けます。そこに胃酸が分泌されて胃壁が攻



撃されると、胃粘膜が急性の炎症やただれ、出血を起こし、このプロスタグランジンで胃痛や吐血の原因となります。合成を阻害する薬です。しかし、このプロスタグランジンには、胃粘膜の血流を良くしたり、胃の細胞を修復する「胃の防御因子」としての働きがあります。

△鎮痛剤の影響 頭痛・腰痛の防御因子としての働きが、体内のある痛みを止めて痛みの元となる「プロスタグランジン」を抑制し、胃痛や吐き気の原因となります。

△喫煙の影響 タバコを吸うと胃の血管が収縮し、胃粘膜の血流が低下します。また胃粘膜のプロスタグランジンが減少するため、潰瘍ができやすくなります。

粘液の合成が低下したり胃粘膜が弱くなり、胃酸による胃粘膜攻撃に耐えられなくなり、胃痛の時に、頭痛用の鎮痛剤を飲むと危険なことがあるのはこのような理由です。

△ストレスの影響 緊張して不安な気持ちを抱えていると、自律神経の一つである「交感神経」の働きで食欲が低下します。ストレスが続くままに交感神経が優位になると、副交感神経の働きも一時的に高められ、この時に胃酸が大量に分泌されるため胃粘膜が傷つけられます。そのため、胃に痛みを感じたり、ひどい場合には胃潰瘍になることがあります。

△ピロリ菌の影響については17、18回に説明します。

（阿知須共立病院診療部長、外科部長）

— 第2火曜日に掲載